

第一回

邦楽・舞踊

昭和55年2月3日(日)／午後1時30分開演／於、調布グリーン・ホール

主催：調布市市民福祉会館文化事業団

馬井

果ては空の
極方へと
飛び去って
行く



番組組

一、連獅子

〔舞蹈〕

親獅子 花柳 珠紫衛

仔獅子 花柳 珠絃

幕 間 (十分)

一、五丈原

〔現代邦楽〕

野村正峰作曲

嶋田 嘉苗・社中

渡辺 歌泰・社中

内野 剣山・社中

指揮者 内野 剣山
第一箏 嶋田 嘉苗・井上 和子・渡辺 澄子

第二箏 駒井 孝子
渡辺 歌泰・松本 歌敬・中尾 歌泉

池田 悦子
中村 歌優・平塚伊志子・安斉 信子
西村 桂子・野口 歌京・山口 歌秀

嶋田 綾子・古池 涼子・中川 梅子
武重 恭子・曾我 節子
粕谷 敦子・馬場 歌溪

尺八 相羽 剣神山・川上 剣令山・森 剣聖
金子 剣琇・橋本 峰秀・佐藤 十雪

塚原 剣秋・小沢 神星・阿部 剣詩
門傳 剣鳳山・石橋 剣勇山・峯村 剣禎
島田 圭介

ドラム

一、松 〈山田流古曲〉

風

.....中能島松声作曲

久松 君博・社中

内野 剣山

箏

久松 君博・菊地 博久・森 博茂

福島 幸博・吉川 和博・田村 博子

吉田みち子

三 絃

浅田 博雅

尺八 内野 剣山

一、湖上の月 〈都山流尺八本曲〉

.....流祖中尾都山作曲

尺八一部

山本 邦山

尺八二部

内野 剣山

一、残 〈地唄〉

月

.....宮城喜代子作曲

唄と三絃

宮城喜代子

箏

岩井田千鶴子

尺八

山本 邦山

休

憩 (二十分)

尺八一部

山本 邦山

尺八二部

内野 劍山

〔地唄〕

一、残

月

.....宮城喜代子作曲

唄と三絃

宮城喜代子

箏

岩井田千鶴子

尺八

山本 邦山

休

憩 (二十分)

〔舞踊〕

一、鷺

娘

.....杵屋忠次郎作曲

中村 扇雀

長唄 芳村五郎治・社中

囃子 田中伝左衛門・社中

照明 相馬 清恒

以上

十七
尺八
相羽
金子
塚原
劍秋
小沢
神星
阿部
劍詩

〈出演者〉

中村扇雀

宮城喜代子

山本邦山

岩井田千鶴子

花柳珠紫衛

花柳珠絃

(出場順)

内野劍山・社中

嶋田嘉苗・社中

渡辺歌泰・社中

佐藤吉和・社中

村岡ふみ・社中

久松君博・社中

鷺娘

長唄囃子連中

鷺娘 扇雀



かいせつ 宝暦十二年（一七六二）四月、江戸市村座で、初演された「柳難諸鳥囃」という五変化ものの一つとして二世瀬川菊之丞が踊ったのがこの「鷺娘」のもとのすがたである。作詞は壕越二三治（一日の狂言の中に必ず舞踊劇を入れるようにした最初の作者）らしいといわれている。作曲は杵屋忠次郎、唄は富士田吉次。曲は伝存していたが、振りとは廃たれていたのを、明治十九年（一八六五）五月新富座で、九代目市川團十郎が「月雪花三組杯觴」という四変化の踊りの一つとして復活した。その後、流行曲となって「鷺娘」だけが独立して踊られるようになると、種々改訂も行われ、新しい解釈による振付けもみられるようになった。

鷺の精に姿を借りて現われはするが、娘心やいろいろの娘の姿をもみせるこの踊りは、鷺そのものの姿を通してみせる純象徴舞踊ではない。鷺の姿でもあり、娘でもあるといった、多角的に変化する情緒や美しさを楽しませるものである。また、夜の雪景色を背景に、古風な趣きと幽艶さにみちたこの舞台は、江戸の錦絵を想わせる。

深々とふけ渡る雪の夜、一面の銀世界。沢辺の芦の茂ったあたりの柳の蔭に、傘をさした娘姿の鷺の精がしょんぼり佇んでいた。

「妄執の雲晴れやらぬ朧夜の、恋に迷いし我が心……」

鷺の精は物思わしげに、恋する女心の憂愁の振りをしんみりと踊りはじめるが、突然友禅姿の可愛いらしい町娘に変わると、華やかに踊る。

続いてなまめいた色模様の振りに移り、更に一転して、賑やかな傘の踊りを浮き浮きとみせる。

やがてそれが優婉な振りに変わると、忽ち恋の煩悩に苦しむ姿になる。パツと引き抜けば鷺の姿。羽ばたきして身をもたえ、添われぬ恋の責苦に髪を振り乱し、舞い狂い続けて、果ては空の彼方へと飛び去って行く。